



Marine Frontier
Science Project



三崎臨海実験所 寄附のお願い



三崎臨海実験所とは？

世界一生物種が多いエリアに作られた研究施設



東京大学三崎臨海実験所は、1886年（明治19年）に現在の三崎の町にわが国最初の、世界でも最も歴史の古い臨海実験所の一つとして設立されました。1897年（明治30年）より、生物相の豊かな油壺に移転し、2016年で創立130周年を迎えました。設立以来、多数の国内外の研究者・学生に利用され、その数は年間延べ3万人にもなります。わが国における生物学の発展に大いに貢献しており、世界的にも、ウッズホール海洋生物学研究所（米）・ナポリ臨海実験所（伊）・プリマス臨海実験所（英）と共に海産動物研究の歴史に大きな足跡を残しています。

空から見た、三崎の先端にある実験所。海に面した立地のため、海洋生物の採集や研究にも適しています

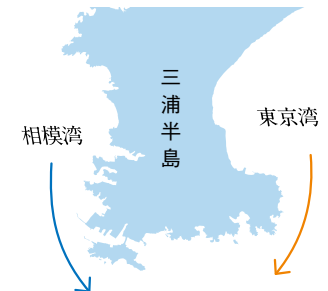


三崎が研究に最適な理由

三崎周辺は世界一豊かな生物相を持っています。この一帯は、相模湾の深海生物と黒潮の潮流に乗った生物が多く生息しており、そこへ東京湾からプランクトンを豊富に含んだ海水が流れ込むという環境にあります。そのため、海の生物にとって非常に生息しやすいエリアとなっているのです。東大の初代動物学教授として就任していたE. モースも、この豊富な生物相に着目し、東京大学に臨海実験所を設立するよう進言したのです。



右上／移転当時の研究所。右下／1901年、露・独・米からの研究者も招いての滞在者たち。左／地元の漁師であり、深海生物の名採集人だった「熊さん」。



明治からの歴史

1877(明10)	東京大学理学部動物学教室創立 E.モース、来日 大森貝塚を発見する(6月) 江の島に漁師小屋を借り、臨海実験所を設立(7月-8月) 日本政府に恒久的臨海実験所の建設を勧告
1879(明12)	モース、東大教授の任満ち一時帰国
1881(明14)	デーデルライン、三崎を訪れて生物の豊かさに気付く
1882(明15)	箕作佳吉動物学教授、石川千代松を連れて三崎で実習
1884(明17)	箕作、三崎に実験所建設の方針を立てる
1885(明18)	三崎町入船の海関(船番所)跡地を入手
1886(明19)	12月13日 実験所落成
1887(明20)	4月1日 「帝国大学臨海実験所」として正式発足
1888(明21)	ウッズホール、プリマス両臨海実験所開設
1897(明30)	実験所、小網代の現在地(油壺)に移転

海洋生物を使って こんな研究をやっています

Case 1 多様かつ可塑的な生活史を持つ 海産動物の発生制御に関する研究

海産動物の中には、一生の中で環境に応じて形態や行動を変化させながら発生・成長を遂げるものも多く見られます。環形動物の多毛類や節足動物の甲殻類などを用いて、生活史の中で生じる多様かつ可塑的な発生のメカニズムとその進化について生態から分子までのスケールにわたった研究を行っています。



ミドリシリスの底生個体(左)と雌雄の遊泳繁殖個体(右)

三浦徹 教授



Case 2 ウニを使った生物共通機構の発見

ウニは棘皮動物門に属し、みかけは違いますが、ヒトと進化的に近い生き物です。ウニで発見したことを、ヒトの骨髄細胞の遺伝子治療などに応用しています。

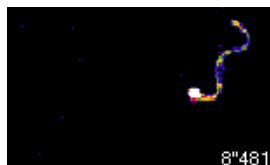


赤坂甲治 名誉教授



Case 3 ホヤを使った標的細胞の位置の認識 進行方向調節の分子メカニズム

ゲノム解析の進んだホヤ(カタユウレイホヤ)を使った精子と卵子の誘引物質の機能解析を行っています。将来的には不妊治療などへの応用が期待される分野です。



吉田学 准教授



Case 4 ウミシダの強い再生能力を活用： 再生機構の解明

ウミシダは、失った「腕」を再生する能力が強く、数ヶ月で元通りになってしまいます。この再生細胞を解析することで、ヒトの再生医療(失った部位の再生)に応用できないか、といった研究を行っています。

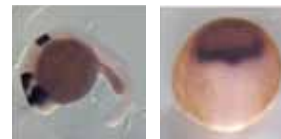


近藤真理子 准教授



Case 5 ゲノムがコンパクトなフグを活用： 頭部構造の進化の研究

ゲノム構造が比較的コンパクトなフグを用い、頭部の神経系統の発達を研究しています。身体がどのように形態を形成していくのかを研究することで、広く医療や生化学の分野での応用を目指しています。



黒川大輔 助教



Case 6 相模湾に棲む生き物の多様性を探る： 沿岸生物合同調査

三崎臨海実験所に面する相模湾からは、現在でも新種や珍しい動物が見つかります。日本中の様々な海産動物研究者と共同で、相模湾にどのような生き物が棲んでいるのかを調べています。



幸塚久典
技術専門職員・学芸員



第2期 マリンフロンティア サイエンス プロジェクト概要

幅広い分野で活躍する研究者とビジネス・産業の専門家を東大三崎臨海実験所に結集させ、三崎の海にすむ生き物を用いた基礎研究の成果から三崎ならではの革新的なビジネスと産業を創出し、「イノベーションを産む奇跡の海、世界の MISAKI」として世界に情報発信することを目的としたプロジェクトです。

●第2期計画

2017年4月～2022年3月完了

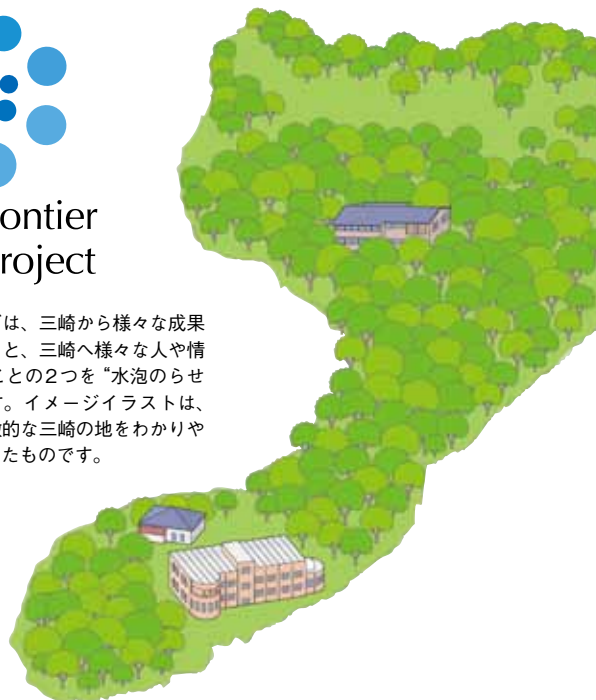
目標 1億5千万円

みなさまからの寄附は、右記の目標を達成するために使用させていただきます。三崎に基礎研究の成果からイノベーションを産む生命科学の拠点を作れるよう、ぜひご協力ください。



Marine Frontier
Science Project

プロジェクトのロゴは、三崎から様々な成果が広がっていくことと、三崎へ様々な人や情報が集まってくることの2つを“水泡のらせん”で表しています。イメージイラストは、当実験所のある特徴的な三崎の地をわかりやすくビジュアル化したものです。



プロジェクトの目標

1 基礎研究の成果からビジネス・産業への芽を見つける

当実験所では「ビジネス・産業への応用も見据えた海洋生物の基礎研究」を行っています。私たちは、三崎の海にすむ生き物の基礎研究の成果から、革新的な明日のビジネス・産業の芽を見つけ出し、はぐくみます。そして生まれた利益の一部を再度研究に投下し循環させるようなモデルを構築します。

2 世界中から研究者と専門家のブレインを集める拠点へ

このモデル実現のために、幅広い分野で活躍する研究・ビジネス・産業の専門家を世界中から集結させ、基礎研究の成果を「新たな価値を持つもの」に生まれ変わらせる必要があります。多様なブレインの集結には、自由な雰囲気にあふれる交流の場とアイデアを生む環境をもった施設が必要です。

3 革新的ビジネス・産業の創出、三崎から日本へ、世界へ

第1期プロジェクトの大きな成果の一つとして、箕作佳吉初代所長と御木本幸吉氏により開発された世界初の真珠養殖技術に因み、真珠を活用する海洋教育と三浦市の地方創生を目指す「三浦真珠プロジェクト」を開始しました。第2期プロジェクトでは、これをさらに強力に推進します。

4 次世代の研究者を育てるための海洋教育の中心地に

第1期プロジェクトでは三浦市の各小中学校・高校を中心に臨海実習などの海洋教育を実施しました。第2期プロジェクトではこれをさらに進め、次世代を担う子供・若者たちを育て、将来のプロジェクトの担い手を生み出していきます。

寄附のしかた

1 書面によるお申し込み

同封の「払込取扱票」に必要事項（各票の※印欄）をご記入の上、各金融機関窓口よりお振込みください。ゆうちょ銀行・郵便局および以下の金融機関の本支店窓口でのお振込みは手数料がかかりません。「払込取扱票」は寄附申込書も兼ねております。振込手数料が必要となる場合は、東京大学が負担しますので、ご寄附いただく金額から手数料分を差し引いた金額をお振込みください。

【口座名義】

国立大学法人東京大学

【口座番号】

三井住友銀行 東京公務部 (096) 普通貯金 0165539
みずほ銀行 本郷支店 (075) 普通貯金 2592055
三菱東京UFJ銀行 本店 (001) 普通貯金 0634582
りそな銀行 本郷支店 (453) 普通貯金 1714277
ゆうちょ銀行 00140-8-741661

2 Webサイトからのお申し込み

東京大学基金ホームページから下記の方法でお申し込みいただけます。

【東京大学基金ホームページ】

<http://utf.u-tokyo.ac.jp/>

- ・クレジットカード決済
- ・インターネットバンキング決済
- ・銀行振込決済



東大基金

検索

※携帯電話よりご寄附
いただける方はこちら



※定期的に寄附を希望される方は、アニュアルギフトという寄附方法がございます。アニュアルギフトはクレジットカード決済により毎月、年2回、毎年など定期的に1,000円から定額のご支援をいただく寄附プログラムです。

ご寄附への感謝

三崎臨海実験所に銘板を掲示します

10万円以上のご寄附をいただいた方は、三崎臨海実験所の銘板にお名前を記して末長く掲示いたします。



安田講堂に銘板として掲示します

30万円以上ご寄附をいただいた方（貢献会員以上）のお名前（連名も可能です）を刻印した銘板を、長い歴史を有する安田講堂に掲示させていただきます。



総長主催「感謝の集い」へご招待します

今年度の累計額が「貢献会員」以上になられた個人の方（本学教職員を除く）を、翌年度ご招待いたします。

※さらにご寄附いただいた方々を対象としたセミナー等へ特別にご招待しております。



称号の授与

特別栄誉会員	1億円以上のご寄附
栄誉会員	1,000万円以上のご寄附
特別貢献会員	500万円以上のご寄附
功労貢献会員	100万円以上のご寄附
貢献会員	30万円以上のご寄附
賛助会員	10万円以上のご寄附

※ご寄附は、累計全額として取扱われます。

税制上の優遇措置

個人からのご寄附

2000円を超える部分について、当該年所得の40%を限度に所得控除対象となります。別途お送りする寄附金領収書を、控除証明書としてご利用ください。(確定申告によりお手続きください)

※所得税確定申告対象は、1月1日から12月31日までの期日となります。

- 寄附金控除により減額される税金(所得税)の目安
(あくまで目安ですのでご参考としてお取り扱いください)

単位：円

寄附金額	課税所得金額			
	500万	900万	1,500万	2,000万
5万	9,600	11,040	15,840	19,200
10万	19,600	22,540	32,340	39,200
30万	59,600	68,540	98,340	119,200
100万	199,600	229,540	329,340	399,200
500万	463,560	1,029,000	1,649,340	1,789,340

※東京都・千葉県・神奈川県・埼玉県在住の方は、個人住民税の寄附金控除(税額控除)の対象となっております(都県により、適用開始年が異なります)。

詳細は事務局までお問合せください。

法人からのご寄附

東京大学基金へのご寄附は税務上、全額損金に算入可能です。

所長からのメッセージ

三崎の海が拓く、 基礎生物学研究から 革新的ビジネス・産業への道

東京大学
三崎臨海実験所
所長 岡良隆



このたび第2期「マリン・フロンティア・サイエンス・プロジェクト」を立ち上げました。これは、幅広い分野で活躍する研究者とビジネス・産業の専門家を三崎に結集させ、三崎の海にすむ生き物を用いた基礎研究の成果を宝石の原石として、そこから革新的なビジネスと産業という三崎ならではの宝石を創出し、「イノベーションを産む奇跡の海、世界の MISAKI」として、東大三崎臨海実験所から世界に情報発信することを目的としたプロジェクトです。

欧米では大学や海洋生物学研究施設に公的資金のみならず民間の寄附金も投入されています。研究成果は特許の取得にもつながり、新たなビジネスや産業を産みだしています。一方、日本では多くの研究が右肩下がり国立大学予算の範囲内で行われており、ビジネスチャンスの芽はなかなか育ちません。そのため、欧米に先を越され特許を独占されてしまう事態も少なくありません。幸い、三崎の海は、東大の初代動物学教授モースも注目した、世界一豊富な生物相をもつ「宝の海」です。この海にすむ生き物の基礎生物学研究で世界のトップに立つ三崎臨海実験所で得られた研究成果の中には、革新的なビジネスと産業を生み出す芽もたくさんあります。

だからこそ、ここ三崎に様々な研究者と専門家が集い、基礎生物学研究の中から革新的ビジネス・産業への道を拓き、三崎を「イノベーションを産む奇跡の海、世界の MISAKI」にするために、皆さまには多大なるご支援とご寄付をお願いいたします。三崎の海から人類のフロンティアをいっしょに開拓していこうではありませんか。

「マリン・フロンティア・サイエンス・プロジェクト」に、ぜひご協力ください。



三崎臨海実験所

【ご寄附について】

東京大学基金事務局

〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1

電話：03-5841-1217 FAX：03-5841-1219

Email：kikin.adm@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

<http://utf.u-tokyo.ac.jp/>

【事業内容について】

東京大学 三崎臨海実験所

〒238-0225 神奈川県三浦市三崎町小網代1024

電話：046-881-4105 FAX：046-881-7944

Email：misaki@mmbs.s.u-tokyo.ac.jp

<http://www.mmbs.s.u-tokyo.ac.jp/index.html>